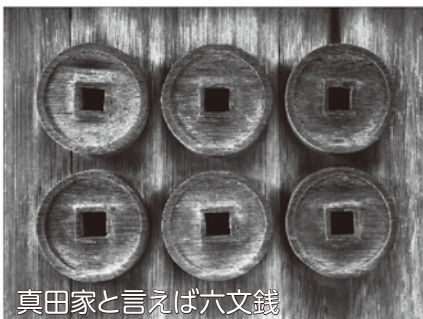


## 真田庵 ～戦乱の世を生きた名将真田幸村の屋敷跡～（九度山町）



真田幸村と言えば、動乱の戦国時代末期に活躍した武将である。信州上田城主だった真田昌幸の次男として生まれた。真田氏は当初徳川家康に仕えたが後に対立。なにかと家康を苦しめた。天下分け目の関ヶ原の合戦でも西軍方についたが惨敗。家康の怒りを買った真田昌幸・幸村父子は死罪に処せられるところであったが、家康側についた昌幸の長男信幸と本田忠勝の嘆願で死罪は免れ、高野山に蟄居をさせられた。後に妻子との生活を許され、女人禁制の高野山から九度山に居を移した。時は流れ父昌幸は没した。そして1614、1615年、家康を滅ぼさんと立ち上がった豊臣側の求めに応じ、九度山の地から大坂に出陣した（冬の陣、夏の陣）。そして夏の陣で壮絶な最期を遂げる事になる（幸村49歳）。庵の近くにミュージアムがあるが、そちらを先に見学してから真田庵の見学をお勧めします。

（取材 萬羽）



真田家と言えば六文銭



## 御所の芝(藤代塔下王子跡) ～熊野古道随一の絶景地～（海南市下津町）

熊野古道九十九王子（九十九は多いという意味で、実際は百一）の一つで38番目。麓の海南市藤白神社には37番目の藤白王子がある。藤白坂を登る途中、悲劇の皇子 有間皇子の墓と歌碑があるが、詳細は割愛する。急峻な坂を登り切ったところにあるのが藤代塔下王子である。塔下は“とうげ”の当て字である。藤代塔下王子は地藏峰寺の境内にある。この地藏峰寺の裏山にあるのが「御所の芝」。平安時代から上皇、法皇の熊野参詣の御幸に際し、休憩を取ったところからこの名がついたと言う。遠く景勝地和歌浦を臨める。今から820年前の平安時代後鳥羽上皇の御幸に随行した藤原定家の「御幸記」にも、江戸時代の名所旧跡景勝地情報誌でもある「紀伊国名所図会」にも景観の良さが記述されており、古くから知られている熊野古道随一の絶景ポイントである。

（取材 萬羽）



御所の芝からの眺め



地藏峰寺



藤代塔下王子跡

